

第二十五回 巖浄閣企画展

福野を走つた鉄道たち



加越線最終営業日(昭和47年9月15日)



会 期

9月28日(木)～10月1日(日) 10:00～16:00

■9月28日(木)は13時のオープニングセレモニー後、スタート!

会 場

国指定重要文化財 巖浄閣(旧富山県立農学校本館)
富山県南砺市苗島443 富山県立南砺福野高等学校内

- お問い合わせ:富山県立南砺福野高等学校 TEL 0763-22-2014
- 主催:富山県立南砺福野高等学校
- 後援:富山県/南砺市教育委員会/福野高等学校同窓会
- 協力:加越線資料保存会

入場無料



加越線 行先表示板(サポ)

明治30年、砺波平野に後の城端線となる「中越鉄道」が開通。富山県で最初に開業した鉄道であり、日本海側において最初に開業した私設鉄道でもあった。その翌年、福野―黒田（現・高岡市下黒田）間から高岡―城端間へと延伸し、大正11年には石動―青島町（庄川町）間に「加越線」が全線開通。福野駅で交差する二つの鉄道が東西南北に走る近代交通の時代となり、砺波地方の発展に大きな役割を果たした。

この二つの鉄道は南砺福野高校の発展にも大きく関わり、砺波地域の中核校としての位置付けを明確にし、多くの優秀な卒業生を世に送り出すことにも繋がった。「福野を走った鉄道たち」の当時の貴重な写真・映像・資料等の展示や解説からその歴史を探る。

巖浄閣企画展

平成8年から続く国指定重要文化財「巖浄閣」で開催する企画展。学校の歴史・歩みに関する展示や地元の文化芸術の紹介や作品展示を毎年行い、国指定重要文化財に立ち寄る機会の提供を行っている。

■展 示

9/28(木)～10/1(日)

パネル

城端線・加越線の歴史、当時の新聞、南砺福野高校との関わりなど

書籍「加越線終末の記」があどくらぶ著

書籍 加越線物語「あの頃加越線が走っていた」

発行:となみ野田園空間博物館推進協議会

鉄道資料

城端線・加越線で使われた切符、時刻表など

加越線フォトムービー上映

制作:小幡勝義氏

鉄道模型ジオラマ

城端線・加越線で活躍した車両展示 ※9/30・10/1のみ走行展示

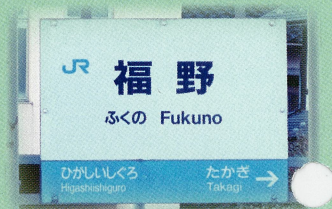
■解 説

9/28(木) 13:30

「加越線について」 加越線資料保存会 今井春継 氏

9/30(土)・10/1(日) 両日とも13:30

「加越線と福野」 加越線資料保存会 木本尚志 氏



川田工業(株)横を走る加越線



福野駅での加越線車両
(キハ173とキハ126)



加越線車両(キハ15001)



城端線車両
(キハ40系高岡色カラーリング)

■加越線資料保存会(会長:村田伸夫)

加越線が鉄道営業を終えてから40年目となる平成24年6月、鉄道愛好家や元社員が集まり結成。現在は20～70代の16名が在籍し、加越線の沿線である砺波市、南砺市、小矢部市を中心に文化祭や公民館祭り、イベントなどで、写真やゆかりの品の展示、講演、鉄道模型走行などの活動を行う。毎年「まちなみアートinいなみ」(旧井波駅会場)や小矢部市民図書館にて鉄道イベントを開催している。